

進路だより号外

2017～2018 第12号

発行
栃木県立盲学校
進路指導部

卒業後のサービス利用について

～～『生活介護』と『就労継続支援B型』～～

保護者のみなさん、あけましておめでとうございます。少し前の話になりますが、11月から12月にかけて、中学部、高等部の生徒の多くが事業所で体験や実習をしてきました。今回の「号外」は、それらの機会に耳にした、現場からの御意見をもとに、幼児児童生徒が卒業後に利用するであろう福祉サービス、「生活介護」と「就労継続支援B型」について考えてみます。まず、サービス概要について原則的な事柄を確認しますと…

《生活介護》

- ・食事、排泄、入浴等、日常生活に常時介助が必要な方が利用するサービス。
- ・「仕事」の意味合いは薄く、活動はゆったりと本人のペースに合わせて行う内容が中心。
- ・簡単な内職作業（リサイクル等）を行う事業所もあるが、「仕事」ではなく「本人のペースに合わせた活動」の一つであると考えられるもの。
- ・障害支援区分3以上（支援量が比較的多い）の方でないと利用できない。

《就労継続支援B型》

- ・雇用契約に基づく労働が困難な方に対して、就労の機会を提供し、就労に必要な知識や技能の訓練等を行うサービス。
- ・食事や排泄等の日常生活動作を、ほぼ一人でこなせる方が主な対象となる。
- ・下請け作業の他、施設独自の商品（パン、アクセサリ等）を生産販売したり、施設外就労（企業等に出向き現場での仕事を行う）を行ったりする事業所も多い。納期遵守や衛生面の保持等、「商品を扱っている」という意識も持たなければならない。
- ・高等部卒業後すぐ利用したい場合は、在学中に専門機関から評価（アセスメント）をしてもらう必要がある。

進路選択が身近な話題となる高等部生はもちろん、他学部の保護者の方々も、お子さんがこういったサービスの利用が想定されるのか、気になるころだと思います。よく、「作業的な活動がある事業所がいい」という希望が保護者の方からも出ますが、その「作業」をどちらのサービスで行うのか、あるいは「作業」そのものが本人には必要なのか、といったことについてよく検討する必要があります。

さて、今回の体験・実習において、現場の声として多く聞かれたのは、「働く意欲」とい

う言葉でした。つまり、「B型」はあくまでも就労に係る支援であり、利用するにあたってはまず大前提として次のことが求められるということです。

・ 身辺処理能力はおおむね身についているか

食事、排泄、着替えのほか、手洗い、歯磨きといった衛生的な習慣や、時間の感覚というものも含まれます。

・ 本人に就労意欲はあるか

あくまでも「就労」ですので、当然のことながら本人なりに働くことに対する認識を持っていることが必要で、それに伴った行動も求められます。

これらが本人に身についていない状態でいくら周囲が右往左往しても、よい結果は生まれません。本人も苦痛が勝つと思います。まずは、「本人の意思」を最優先して決めることは言うまでもありません。意思決定の表出が困難な子どもの場合には、親や教員等周囲の支援者が意思決定を代行することになりますが、意思決定支援において留意しなければならないことは、各自がよく考えなければならないと思います。

その他、コミュニケーション力、作業への集中力や持続力、向上心等、「働く」ということにおいて必要な力はいくつもあります。しかし、サービスの種類にかかわらず外部の方と関わっていて案外大切だなと感じた能力をあえて書いてみると…

・ 「愛されキャラかどうか」

「は？」という感じでしょうか。いやいや、案外これが大事なんです。能力？と言って良いかどうかは分かりませんが、「かわいがられる」という資質は支援を受けて生活する上では重要です。私はかわいがられない人間なので分かりませんが、これまでの人生を思い返してみると、愛嬌の良さ（だけ？？）で引き立てられている人間が周りにいたようないなかったような…。支援する側も人間ですので、「笑顔が素敵」「挨拶が元気にできる」「仕草がかわいらしい」といった第一印象からスタートし、「素直で聞き分けが良い」「話し好きで人なつこい」「相手のことまではあまり考えないようだ」「言葉遣いが粗暴だ」といった印象で常に相手を評価しながらイメージを形成していきます。支援する方々はプロですので、そういった評価の結果が支援の質にあからさまに反映されることはないでしょうけれど、かわいがられないよりはかわいがられる方が「得」なのは言うまでもありません。「誰の支援でも受けられる」「素直に指示が聞ける」といったキャラクターは、普段の生活から身につけていけるものです。

また、保護者の方々も相手からは同様に「評価」されているということも合わせて考えてみる必要がありそうです。障害福祉サービスとはいえ、そこには人やお金など、様々な方面からの制度的な支援が入っています。施設やサービスに対して不満を抱くことがあるかもしれませんが、自己本位的な見方が過ぎると、それが巡り巡ってお子さんの支援に跳ね返る、といったことがあるかも…。「情けは人のためならず」ということわざもあります。以前ある市町福祉課の方が、「市民は行政サービスを受けるのは当たり前のことだと思っている。ごみ収集とか信号機とか、何でも経費と人手がかかっているのに。」と愚痴をこぼしていました。サービスは、共同体で暮らすみんなの協力で成り立っている、ということを頭の片隅に置いておくことは、必要なことなのかもしれません。